

Fullerton India出資について

2021年7月6日



三井住友フィナンシャルグループ

1. 本件取引の概要

基本情報

対象企業	<ul style="list-style-type: none">インド大手ノンバンク Fullerton India Credit Co. Ltd.（以下、Fullerton India社）
取引概要	<ul style="list-style-type: none">SMFGは、Fullerton Financial Holdings Pte. Ltd.（以下、FFH社）から、Fullerton India社の株式74.9%を20億米ドル相当で取得予定本取引後、SMFGはFullerton India社を連結子会社化
財務影響	<ul style="list-style-type: none">リスクアセットへの影響：3,000億円程度増加の見通しCET1比率への影響：▲22bps 程度の見通し投資採算：のれん償却後ベースの利益貢献は3年目展望
戦略的意義	<ol style="list-style-type: none">SMFGが掲げるアジアのフランチャイズ拡大戦略に合致インドのリテール・中小企業向け金融サービスの成長を取り込みSMFGとのシナジー創出によるバリューアップ

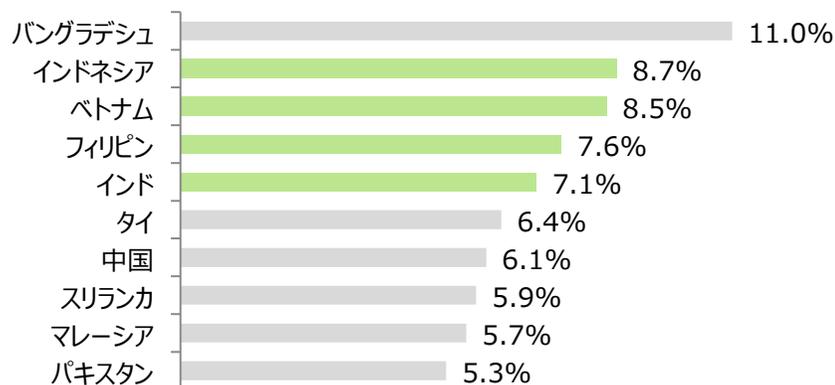
SMFG：株式会社三井住友フィナンシャルグループ

アジアフランチャイズ戦略 (1)対象国の魅力

ベトナム、フィリピン、インドネシア、インドの出資案件を通じて、長期的な経済成長の取り込みを図る

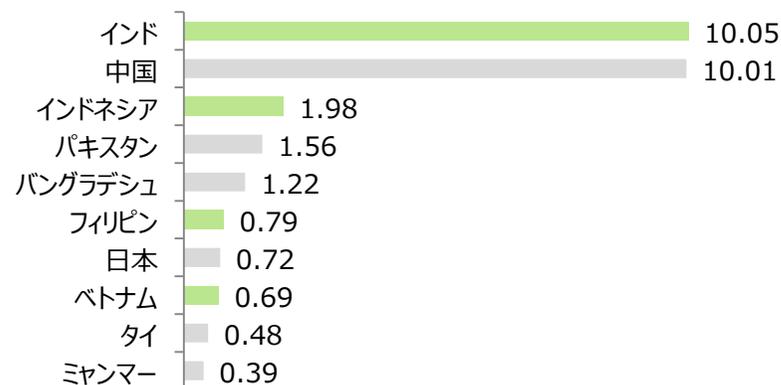
高い経済成長

一人当たりGDPの年平均成長率（2021～2030年）



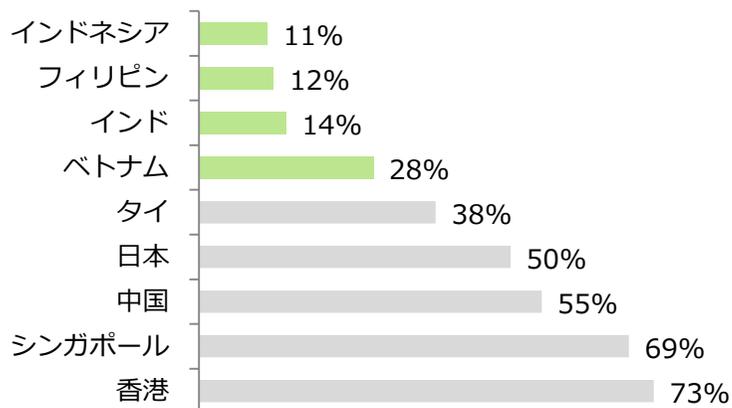
豊富な生産年齢人口

生産年齢人口予想（15歳以上65歳未満、億人、2027年）



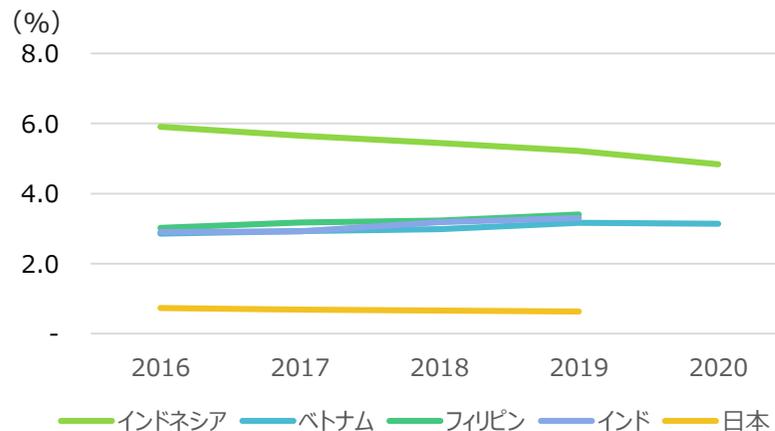
リテール金融の長期的な成長ポテンシャル

家計向け融資 GDP比率（2019年）



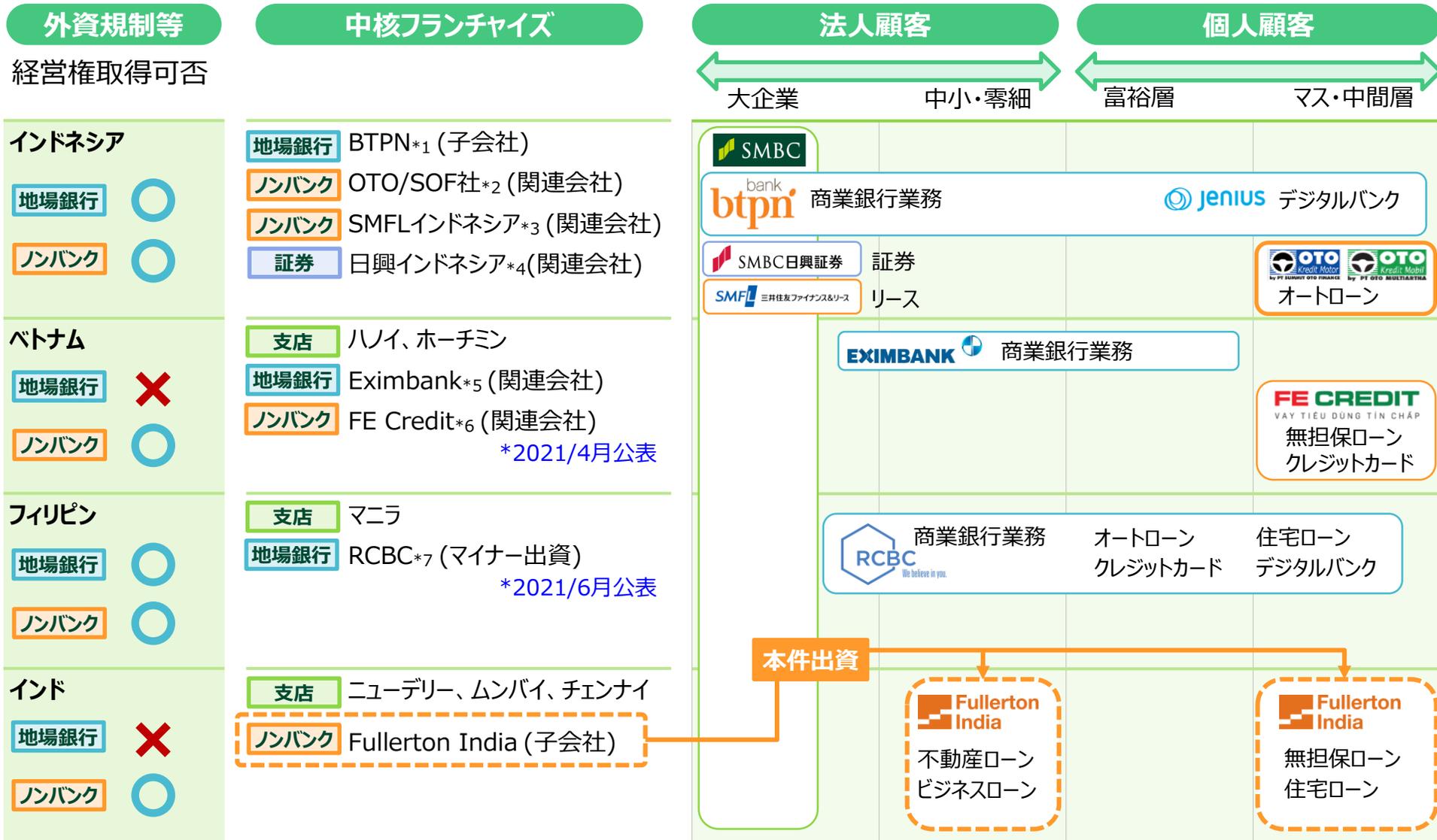
金融セクターの貸出利鞘

国別の貸出利鞘（2016～2020年度）



アジアフランチャイズ戦略 (2) 本件取引の位置づけ

インドネシアBTPN買収に次いで、ベトナム、フィリピン、インドにおけるプラットフォームへの出資実行



*1 PT Bank BTPN Tbk *2 PT Oto Multiartha / PT Summit Oto Finance *3 PT SMLF Leasing Indonesia *4 PT Nikko Sekuritas Indonesia
 *5 Vietnam Export Import Commercial Joint Stock Bank *6 VPBank Finance Company Limited *7 Rizal Commercial Banking Corporation

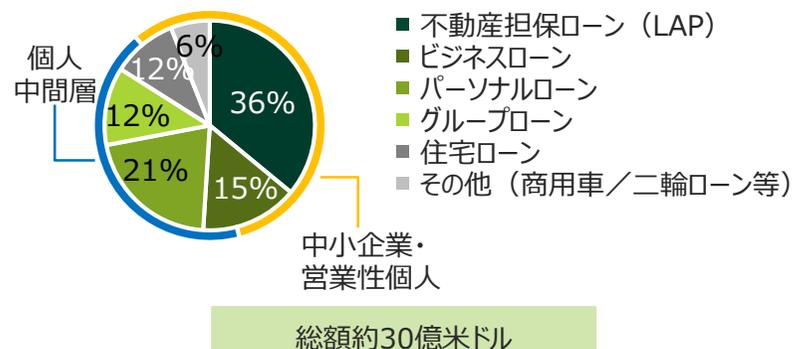
2. 対象会社の概要（1）

インド全域をカバーし、幅広いプロダクト、バランスの良い高収益ポートフォリオを持つ、地場優良ノンバンク

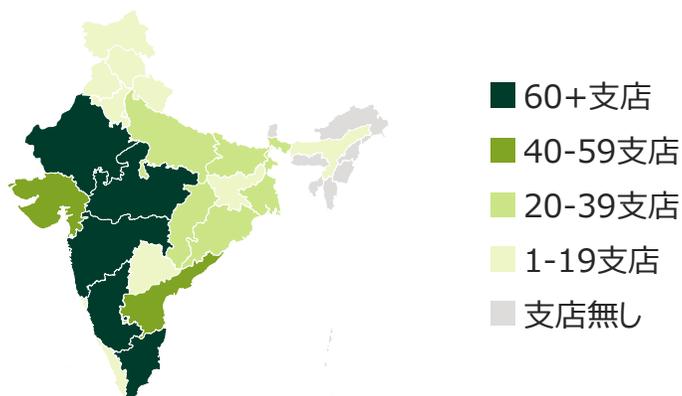
基本情報

会社名	Fullerton India Credit Company Limited
沿革	1994年：設立 2005年：FFHが当社を買収 2011年：現地当局よりシステム上重要なノンバンクとして登録される 2015年：住宅金融子会社を立ち上げ
代表者	Mr. Shantanu Mitra (MD & CEO)
従業員数	約14,000名
拠点	インド国内に650店超の全国的ネットワーク

多様な貸出ポートフォリオ



インド全域に広がる支店網



インド・ノンバンク 業界における高いプレゼンス*1

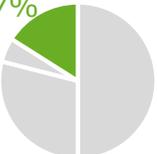
貸出利鞘		貸出残高（億ルピー）	
1位	Fullerton India 11.3%	Bajaj Finance	15,295
2位	SCUF 11.0%	Tata Capital	7,722
3位	Bajaj Finance 9.3%	HDB Fin	6,156
4位	HDB Fin 7.6%	IIFL	4,469
5位	IIFL 5.1%	SCUF	3,350
6位	Tata Capital 4.5%	Fullerton India	2,505

出典：会社資料、S&P Global Market Intelligence；*1 直近期末時点。インドのノンバンクのうち、直近期末貸出残高上位30社との比較。尚インフラ、住宅ローン、国有、車両ローン、金担保ローン、設備投資金融、クレジットカードおよびリテールや中小企業の貸出ポートフォリオが60%以下の分散型ノンバンクを除く

2. 対象会社の概要 (2)

都市部や地方農村部、オンラインチャネルを通じて、SME・リテール顧客向けにローンを提供。

事業セグメント

セグメント	貸出比率	支店/顧客数	概要	プロダクト
 都市部 Fullerton point	50% 	217支店 221千顧客	都市部において、消費者、営業性個人、中小企業向けに多様な貸出サービスを提供	無担保 有担保 パーソナルローン(給与所得者/自営) ビジネスローン 証券担保ローン 車両ローン 不動産担保ローン
 地方農村部 Fullerton Gramshakti	29% 	412支店 2,020千顧客	金融サービスが十分に浸透していない地方農村部において貸出事業を展開	グループローン ビジネスローン 二輪ローン 不動産担保ローン
 デジタル Fullerton Direct	4% 	64千顧客	デジタルチャネル、フィンテック企業とのパートナーシップを活用した貸出事業を展開	パーソナルローン(給与所得者/自営) ビジネスローン
 住宅金融 Fullerton Grihashakti	17% 	70支店 24千顧客	Fullerton India子会社のHFCを通じ、主に住宅ローンと不動産担保ローンを提供	住宅ローン 不動産担保ローン デベロッパーファイナンス

*2021年3月31日時点

2. 対象会社の概要 (3)

主要財務情報*1

億円	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
業務粗利益	427	541	476
経費	164	199	179
与信費用	83	172	541*3
当期純利益	116	114	▲182
総資産	4,032	4,933	4,165
純資産	537	689	620
貸出金	3,580	4,091	3,122
不良債権比率*2	2.0%	2.1%	9.6%
ROE	25.2%	18.0%	▲23.8%

*1 1インドルピー = 1.50円で換算; *2 不良債権比率のみ単体

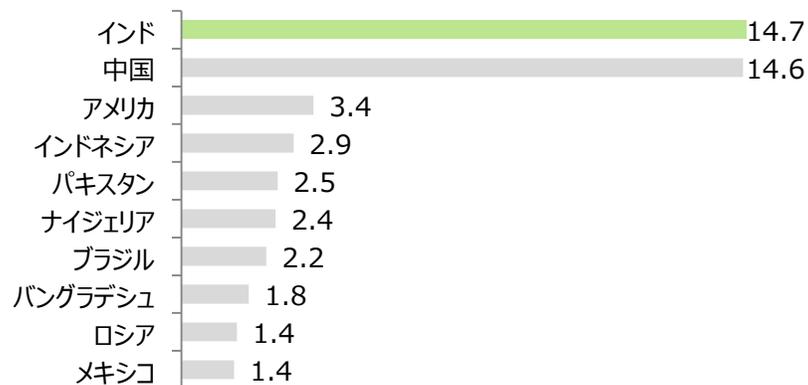
*3 コロナによる一過性影響273億円相当を含む (リストラ債権の引当処理、予備的ECL引当など)

3. 戦略的意義 (1) インド市場の成長を取り込み

本件買収を通じて、インドのリテール・SMEセクターの長期的な成長性を取り込みを図る

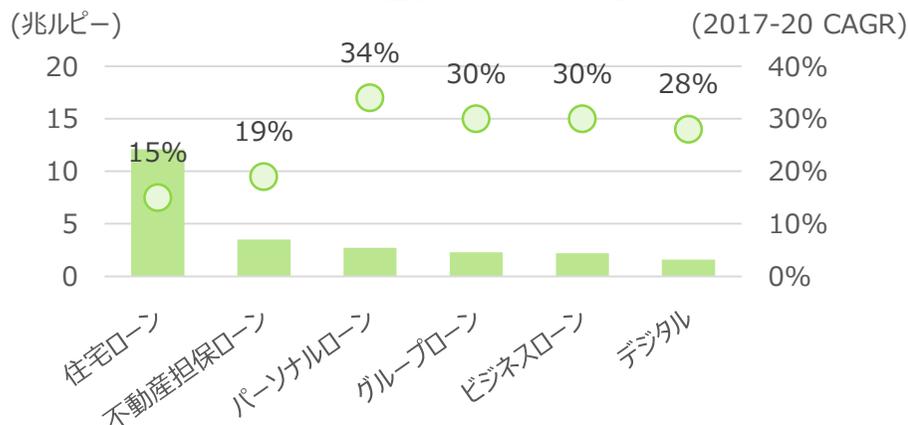
2027年に世界最大となる人口大国

2027年の人口ランキング予想 (億人)



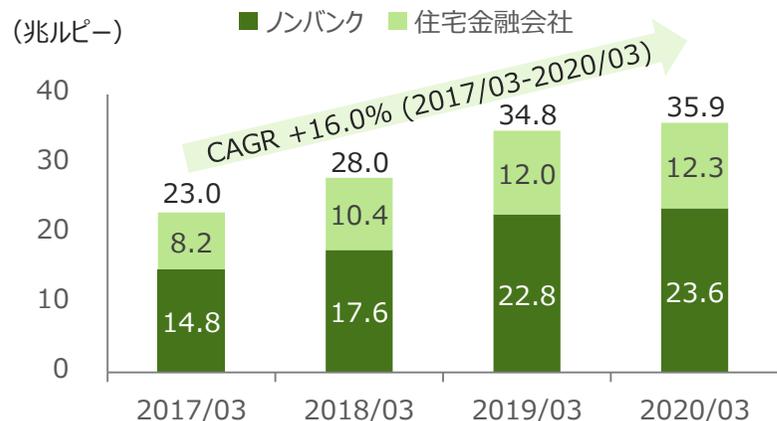
主要プロダクトの貸出総額

Fullerton Indiaが取り扱う主要プロダクトの市場サイズ



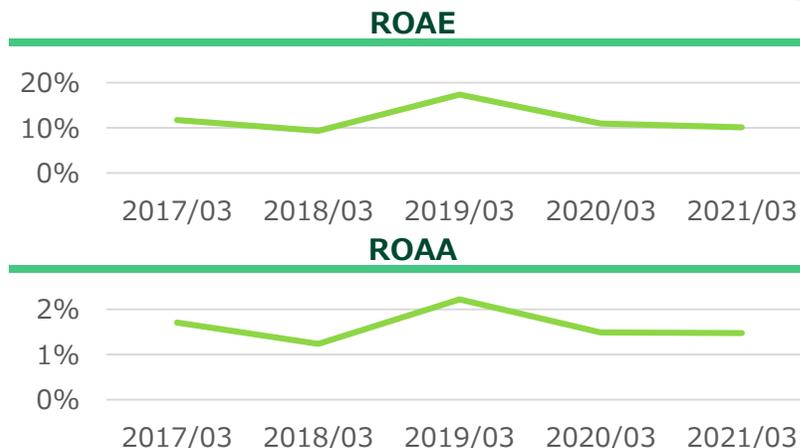
ノンバンク・住宅金融市場は高成長を継続

インドのノンバンク及び住宅金融会社による中小企業・個人向け貸出総額



収益性の安定した市場

インド・ノンバンク業界における主要上場企業の平均ROAE/ROAA*1



出典：外部調査、BMI Research; *1 下記企業の平均：STF、Mahindra & Mahindra、Sundaram、Cholamandalam、Magma、Bajaj、Aditya、Edelweiss、L&T、IIFL、Shriram City、Reliance、MAS、IndoStar、Spandana、Satin、CreditAccess

2. 戦略的意義 (2) シナジー創出によるバリューアップ

SMFGとFullerton Indiaの強みを活かしたシナジー創出により、バリューアップ

<p>貸出ポートフォリオ の成長</p>	<p>SMFGの顧客基盤を活用し、更なる貸出成長機会を獲得</p> <ul style="list-style-type: none">日系メーカー等に対して、販売金融、ディーラーファイナンス、職域ローン等のソリューションを提供
<p>資金調達サポート</p>	<p>SMFGのファンディング支援により、競合ノンバンクに差別化</p> <ul style="list-style-type: none">デット、エクイティ両面で、貸出成長を力強くサポート <p>外部資金調達の多様化を支援</p> <ul style="list-style-type: none">SMFGのプレゼンスを活かし、海外市場における資金調達・投資家拡大を支援
<p>ノウハウ提供・ プロセス効率化</p>	<p>SMFGの国内外におけるノウハウを最大限活用</p> <ul style="list-style-type: none">国内やアジア出資先における個人ローン、中小企業ローン、オンラインレンディングの知見を共有オペレーション効率化、事務手続のデジタルシフトをサポート



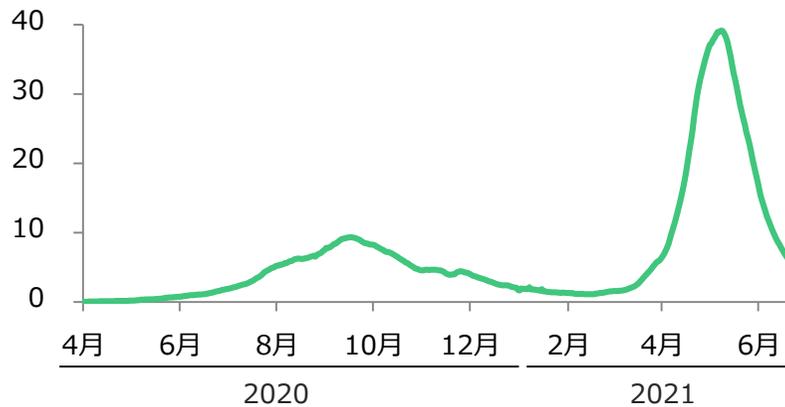
Appendix

インドにおけるコロナ禍影響と回復見通し

新規感染者数減少・ワクチン接種率上昇を背景とした経済回復に伴って、リテール需要も回復する見込み

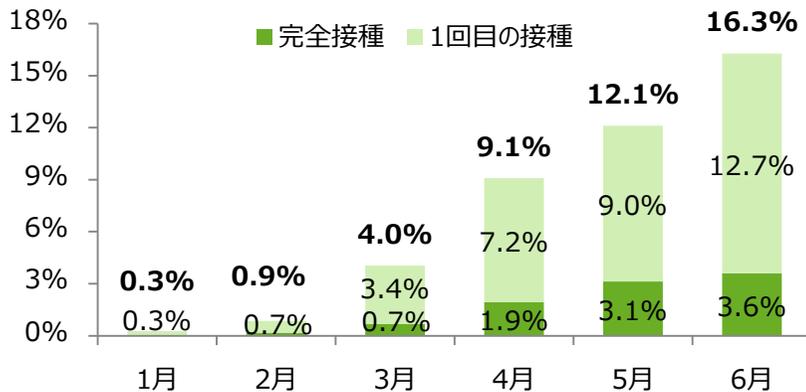
コロナ第二波のピークアウト

新規感染者数の7日間移動平均
(万人)



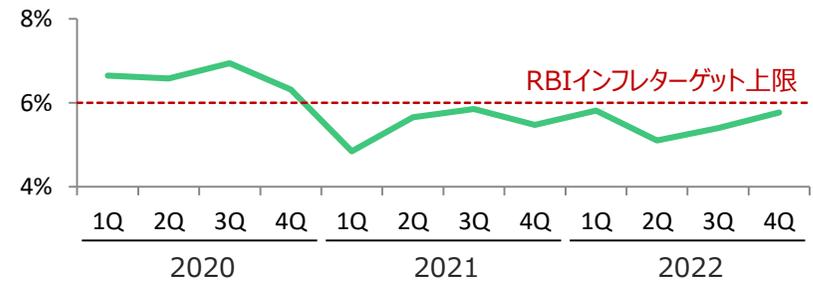
ワクチン接種の普及

ワクチン接種率の推移 (2021年初来)



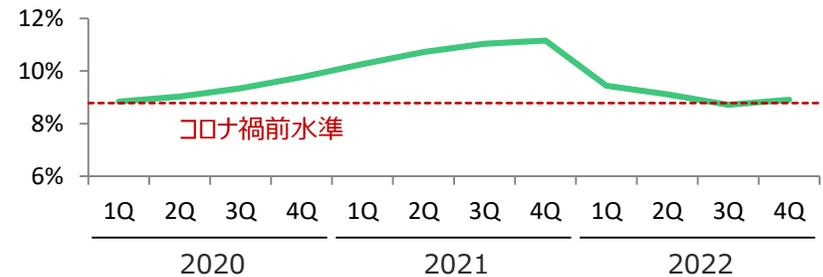
リテール需要の回復見通し

CPI変化率の見通し (対前年同期比) *1



- CPI変化率は目標インフレ率の上限を下回り、低-中所得者層の生活状況改善に寄与する見込み

失業率の見通し*1



- 失業率は来年初頭から改善し、2022年3Qにコロナ前水準に回帰する見込み